

愛知県の外来植物 4

東三河支部

瀧崎 吉伸（愛知県外来種検討委員）

4. 園芸植物由来の帰化植物

現在帰化植物となって除草に手をこまねいているものの中には、意図的に鑑賞目的や食用目的で持ち込まれたものも少なからず存在します。

近年問題となり、環境省の重点対策外来種に指定されているツユクサ科のノハカタカラクサ *Tradescantia flumiensis* Vell.（愛知県内のもは主にミドリハカタカラクサ。品種名‘*viridis*’ 写真下）も、元々は葉に博



多帯のような美しい斑が入り、人気の高い園芸植物でした。先祖返りをして斑がなくなっていますが、緑の葉と白い花のコントラストはそれなりに見応えがあります。明るいところにも生育しますが、暗い林床にも入り込んで一面に繁茂し、在来種はもちろん、他の植物の生育を著しく阻害します。花は普通不稔で種子をつくらず、広がりにくいと思われたようですが、地下茎の先に殖芽ができ、栄養繁殖で猛烈に広がります。除去しようと引き抜くと殖芽が地下に散布され、かえって殖え広がってしまいます。豊川市長沢町には、およそ1kmあまりにわたって、県道沿いにスギ林の林床を覆い尽くしている場所もあります。

ときには、園芸目的でおそらくは非合法に持ち込まれたものも見いだされます。渥美半島が国内初の侵入地域と考えられるキク科のポンポンアザミ *Campuloclinium macrocephalum* (Less.)DC.（写真下）は、ど



うやら曰く付きの帰化植物のようです。種名が判明するきっかけとなったのは、岐阜県で行われた園芸植物の展示会です。カオリアザミ *Vernonia glabra* (Steetz)Vatke の名前で出展されたこの植物は、南米原産。カオリアザミは南アフリカスワジランドの稀少種で、薬効も知られ規制を受けた植物です。おそらく、誰かが花の色が同じこの植物（スワジランドで強害雑草になっている）を間違えて盗んできたのでしょう。